項目		説明
試料・情報の利用目的及び利用方法	研究課題名	膵・胆道系腫瘍における遺伝子変異由来がん抗原の同定
	研究目的	最近、がん細胞の遺伝子解析が比較的容易に実施できるようになり、変異遺伝子を標的とする個別化治療が一般化されつつあります。本研究では、膵臓がん・胆道がん組織に由来するがん細胞の遺伝子解析、および、ペプチド解析により、変異遺伝子に由来するがん抗原を効率的に同定する手法を確立します。また、その過程で、膵臓がん・胆道がん組織を移植したマウスモデル（ゼノグラフトモデルといいます）を作成いたします。本研究の成果として、変異遺伝子を標的としたがん免疫治療の開発に有用な知識・技術が得られるものと期待されます。
	研究期間	西暦 2017 年 11 月 16 日 ～ 西暦 2021 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目（チェック[X]が入った項目を利用します）		[ ] 血液　[_] だ液　[_] 臨床検査データ [X] 病理組織　[_] 排泄物（尿・便）　[X] その他（マウスに移植し樹立したがん細胞株） [_] 毛髪　[X] 診療記録
試料・情報の管理についての責任者	研究責任者	笹田　哲朗
試料・情報を利用する者の範囲	当センターでの実施診療科/部局等	臨床研究所
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	東京大学アイソトープ総合センター 川村　猛　（プロテオミクス研究室・准教授） 東京大学先端科学技術研究センター 油谷浩幸　（ゲノムサイエンス分野・教授）